

学校教育目標 「ともに成長し、未来を切り拓く児童の育成」
めざす学校像 『誰もが行きたい 行かせたい 来させたい学校』
めざす児童像 まなぶ子 はげむ子 あたたかい子

Let's challenge Keep trying Keep shining



HPへGO!



神郷北小だより



令和6年1月吉日号③
新見市立神郷北小学校

明るい家庭作り作文コンクール「とうちゃんはスーパーマン」 優秀賞 高学年部5年 石倉 翔さん

岡山県青少年育成県民会議主催の作文コンクール「明るい家庭づくり」に応募し、新見市審査会で優秀賞を受賞した作文を紹介します。お父さんとのやりとりを素直な心で描写しています。思わず吹き出しそうな表現もありますが、親子の絆がうかがえる作文です。楽しんで読んでください。



父ちゃんはスーパーマン

神郷北小学校 五年 石倉 翔

ピッチング、素振り百回、たまにトスバッティング、これが、父ちゃんとの練習メニューだ。どんなに仕事でつかれていても、父ちゃんは、ぼくの練習に付き合ってくれる。

ぼくは、ソフトボールのチームに所属している。ポジションは、ピッチャー、内野手、何でもこなす。人数が少ないから仕方がない。こんなチームのコーチを父ちゃんがしている。

先日、試合があった。相手チームは強いチームだ。ぼくらは、試合前からきんちようしていた。

こんなぼくらに父ちゃんは、

「何きんちようしとんなら。やる前から負けとるがな。練習してきたんじゃけえ、がんばれ。」

と言った。なんかふしぎな力を感じた。

ゲームが始まると、父ちゃんは、ランナーが出ると、全身を使って、右腕がちぎれるんじゃないかと思うくらい回して走らせるし、ストップをかけるときには、両手を広げて、

「ストップ！ ストップ！」

って言う。必死に伝えようとして、一生けん命で全力な父ちゃんがかっこいいなと思う。

父ちゃんは、相手ランナーがちゃんとベースをふむか、いつも見ている。ふんでないかったら、

「ボールをベースに投げてふめ。」

と言う。アウト一つ取るのに真剣だ。

バッターの時は、

「しっかり腰を回して、タイミングを取って打て。」

と言う。どうもぼくは、打つときに、ひじが伸びてしまうらしい。

父ちゃんも小さいころから、野球もソフトもしていたそうだ。専門は、キャッチャーだけど、野手も全て完ぺきにできて、ホームランを何本も打つスーパープレイヤーだったと、よっぱらって自まん気に言う。小さい頃のことを見るのができないから、真実は分からないけど、じいちゃんとはあちゃんは、何も言わない。

ふだんの父ちゃんは、とてもじゃないけどカッコいいとはいえない。すぐくだらない。

ぼくらは、毎日じいちゃんの家で夕ご飯を食べる。夜は、ビールをたらふく飲んで、よろよになつて家に帰る。そして、家でもチューハイを二〜三本飲んで、リビングでそのままになってしまう。歯みがきもしないで。当然、母ちゃんにめっちゃくちやおこられている。毎日、同じ事をくり返すこりない父ちゃんだ。でも、朝は必ず起きて、仕事に行く準備をする。

父ちゃんの人生のメリハリがすごい。家の中では、すぐく力をぬいて、リラックスしていて、一歩外に出ると、真面目な父ちゃんになる。こんな父ちゃんがカッコいいと思う。ぼくも父ちゃんみたいになれるように、何から修行を始めようか真剣に考えている。

第32回全国小学生作文コンクール「わたしたちのまちのおまわりさん」 審査員特別賞 高学年部5年 坂田柚季さん

毎年募集のある作文コンクールですが、今年度本校から数名が応募したところ、坂田さんが全国で審査員特別賞を受賞し、年末に東京の読売新聞社で開催された授賞式に出席してきました。新郷駐在所の川成警部補との交流を記したのですが、内容も表現方法も想像しやすく審査員の心を掴んだのでしょう。

1月24日には、新見警察署で報告会を行いました。新郷地区の安全を守ってくださる川成警部補に感謝と敬意を込めて、全文を紹介します。



たよれるおまわりさん

五年 坂田 柚季

私たちの町のおまわりさんは、私が三年生の時にやって来ました。パンチパーマに、色のついたメガネをかけている姿を見てみて、こわっと、心の中で叫びました。しかし、二年たった今では、全くそうは思いません。

おまわりさんは、よく私たちの学校に来てくださいます。交通安全教室です。とても分かりやすい説明をしてくださるし、実際に自転車に乗る時のアドバイスもていねいです。点検の順番、乗る時の注意など、とても分かりやすい説明なので、

「おまわりさん、さすが。あっぱれ。」
と、心の中で叫びます。

先日、祖母からこんな話を聞きました。名付けて「コンバイン事件」です。

祖父が、いねかりを終えて、田んぼから県道八号線に出たとき、急にハンドルを切ったら、コンバインのベルトが外れて動かなくなりました。車の往来もあり、迷惑で危険な状態だったそうです。その時、たまにおまわりさんが通りかかって、車のゆうどうをしにくださったそうです。祖父は、事故を起こすことなく、無事に帰ってこれました。おまわりさんにとっては、当たり前の仕事かもしれませんが、祖母は、天の助けが来たと思ったそうです。この話を聞いた私は、

「おまわりさんは、きせきの男だ。」
と、やはり心の中でさけびました。

実は、私は毎朝、おまわりさんといっしょに登校しています。毎日、学校まで歩いて通っていますが、おまわりさんは、晴れの日も雨の日もいっしょに、学校まで歩いて来てくださいます。雨の日などは、かさもささずに、白いかっぱを着て、歩いていきます。ぬれないかな、だいじょうぶかなって、心配になりますが、おまわりさんは、平気そうです。きっと、雨の日でも両手を使えるように、かさをささない決まりがあるんだろうなと思います。そして、いつも私たちのペースを考えながら歩いてくださるので、とても助かります。学校に着くと、

「ありがとうございます。」

と言うと、とてもうれしそうに見送ってくださいます。その後も、スクールバスに乗った人たちが来るのを校長先生といっしょに迎えてくださいます。同じように大きな声であいさつをしてくださるので、バスの人達も、元氣が出ます。私たちの学校は、おまわりさんに見守られ、最強の学校です。

おまわりさんは他にも、学校の安全を思って、行事にも積極的に参加してくださいます。もちろん、パトカーやバイクで町内の見回り、事件や事故の対応もされています。この町の安心・安全は、おまわりさんがいることで作られています。だから、私は、自分にできるおまわりさんのお手伝いやおまわりさんの良さをすごい事、かっこいい事を多くのの人に、大きな声で叫びたいです。

次号も子ども達の作品を紹介します。子ども達のがんばりを応援してください！！